

琉球大学学術リポジトリ

養鶏と飼料(2) : アメリカの養鶏をみて

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 祐一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19584

六、追肥は早目に終りました。

追肥は秋運使概によつても、一般の状況を見ても窒素系肥料一点張りになつていますから、施肥の時期を失しますと、茎葉の繁茂にそぐがれ、逆の結果をきたしますから、植付後一ヶ月以内これを終るようになしなす。

七、除けつば丁寧にしましなす。

一個の種から数センチ芽が伸びて来ます。これを放任して置きますと、各々が独立した澱粉工場状態となり、充分に肥料が廻つて来ませんので、薯の太りが悪く商品価値の少い小型薯しかとれません。出来るだけ早目に生育旺盛で健全なものに成して、後は抜き取る必要があります。

ところが薯が二寸程度に伸びた頃には、すでに薯が形を作り

ていてますので、手荒く取扱いますと、傷をつけることが多く、そのため薯の肥大が遅れます。

こうさせないために、一方の手で種薯を動かさない様によく押え、丁寧に付根から抜き取る様にしましなす。

八、ポルドー液を使いましなす。

馬鈴薯の病害にとつて、石灰ポルドー液は特效薬といわれています。

それにポルドー液中の銅剤は、馬鈴薯を刺戟してその生育を促進すると云はれていますので、病害の予防と、生育促進をかね開花前までに二・三回撒布する様にしましなす。

以上想いつくまゝに、馬鈴薯栽培法に駄筆を加えましたが、今年には打ち続く台風で、農家食糧の玉軸をなす甘藷の被害が予想

以上に大きく、これに絶ての期待を掛けるわけに行きません。勿論各農家では、芽出し肥料の施用、秋田床の準備等万全の策を講ぜられつゝあるとは思いますが、これから冬に向うことでもあり、時期的に見て、甘藷依存にも限度があります。

甘藷に代り、冷涼な気候でよく其の成果を發揮する、馬鈴薯に肩がわりしてもらつ事が得策と思はれます。

遠く海を越え、運ばれて来る種薯でもあり、馬鈴薯の栽培に当つては、細かく気を配り、来春の農家食糧肌きに光明をもたらす様努力に努力を重ねましなす。

(又 吉 盛 忠)

養鶏と飼料

(2)

アメリカの養鶏をみて

先月号にカリフォルニアの専業養鶏が沖繩のそれに比べて大規模であり、一人で二・三〇〇〇羽は容易に経営管理していけると云ふことを書いたのである。之は勿論、資本が大きく優良のヒナの購入が容易で、飼料価格が割安で、卵市場が大きい等色々の面で有利な面があるからであるが、鶏の飼ひ方と云う点から見て非常に差がある。

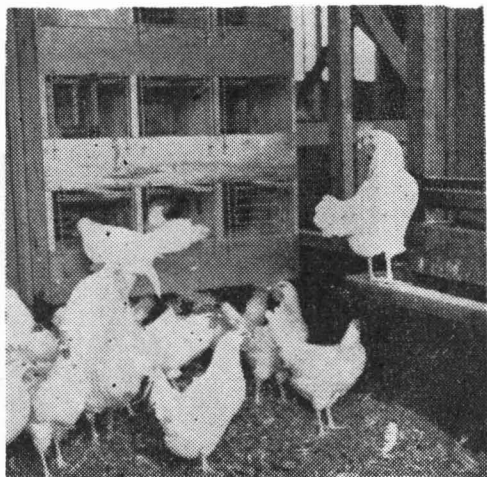
沖繩では、日本本土の場合と同様、餌を朝昼夕の三回に分けて与え、且毎回次の給餌時間迄に食い盡す程の量を与える。こうすれば鶏は喜んで餌を食い、餌が不経済になる事も少いからである。水も毎日放回り換えて、いつも新鮮な水を飲ますよう

当りの利益を多くすると云う方法である。

アメリカの養鶏家も根本的な考えに就ては吾々と同じであると思ふが、然し飼料は自動給餌器を使つて与え、水も水道に連結した自動給水器で飲むようになれば人手は非常に省けるようになる。人手が省けるから沢山の鶏を飼養することが出来るわけである。もつと極端に云へば一羽当りの利益は多少落ちてしまふから出来るだけ大羽数を管理し、教の力に物を言わすと云う養鶏管理のようになす。

鶏と飼料

鶏卵、鶏肉の生産費の六〇％は飼料費であるとアメリカではいわれている。何処の国でも飼料問題が一番の関心事であることに変わりはない。



種鶏六萬羽を育すと云うキンパー農場の種鶏の一室、(元氣な鶏とトラツブネスト)

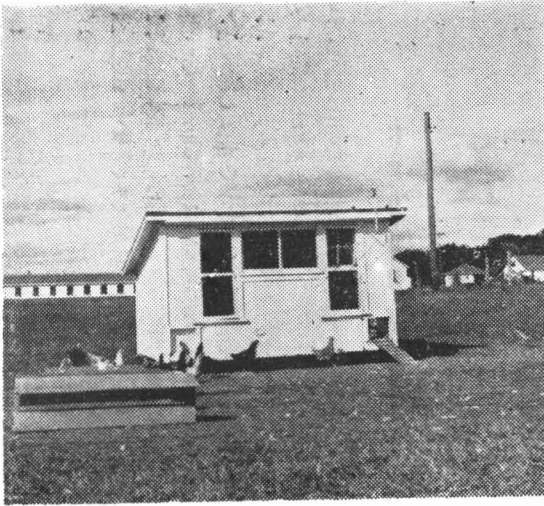
これから量の面から見れば鶏の飼料について、述べてみたい、先づ奇難から産卵開始迄に如何程の餌を必要とするであらうか？ 鶏の研究で多くの成績を發表し且權威者揃ひの米国ニューヨークコーネル大学の成績を引用してみると次の通りである。

最初に説明を加えるが、百羽のヒナが再付後一週間に幾らの餌を食うか、第二週間に幾ら食うかと云うように一週間につづいて区別して餌の量を調査している。次に白色レグホン種のように体の軽い品種とフリマズロック種やニューハンプシャー種のような体の大きい兼用種とは食う餌の量も違ふから両者を別々にしてある。

雛飼料消費量調(餌付から一八二日間)

週	百羽一週間の 摂取量	兼用種	白色レグホン種	兼用種	百羽一週間の 摂取量	兼用種	白色レグホン種
一週	ボンド 一四九	ボンド 一四九	ボンド 一一、二	ボンド 一一、二	ボンド 一四九	ボンド 一一、二	ボンド 一一、二
二週	ボンド 二二、五	ボンド 三六、四	ボンド 一七、九	ボンド 二九、一	ボンド 二二、五	ボンド 三六、四	ボンド 一七、九
三週	ボンド 二九、〇	ボンド 六五、四	ボンド 二八、四	ボンド 五七、五	ボンド 二九、〇	ボンド 六五、四	ボンド 二八、四

中雛を放飼する コロニー鶏舎
(移動鶏舎) ミシカン州立大学



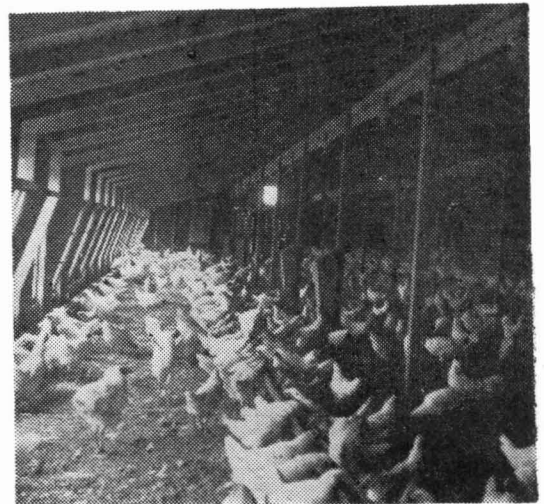
五 四
三七、五 一〇二、九
五〇、〇 一五三、〇
五七、七 一五五、四

六	五七、四	二二〇、四	七二、七	二二八、一
七	七一、九	二八一、三	八四、九	三三三、〇
八	六四、五	三四六、八	一〇〇、三	四二三、三
九	九九、四	四四六、二	一一六、七	五三〇、〇
一〇	八一、四	五二七、六	一一七、四	六四七、四
一一	八四、九	六二二、五	一三四、八	七八一、二
一二	一〇七、〇	七一九、五	一四〇、一	九二二、三
一三	一〇九、三	八八八、八	一三九、六	一〇六九
一四	一〇八、二	九三七、〇	一二八、二	一一九〇、一
一五	一一三、二	一〇五〇、二	一三〇、三	一三三〇、四
一六	一一六、〇	一一六六、二	一三六、九	一四五七、三
一七	一二五、一	一二八一、三	一四八、三	一六〇五六
一八	一二八、〇	一三九九、三	一三三、〇	一七三三八
一九	一〇三、九	一五〇三、二	一二八、九	一八六七、五
二〇	一〇九、二	一六二二、四	一三一、〇	一九九八、五
二一	一二七、九	一七四〇、三	一四六、三	二一四四、八
二二	一一五、二	一八五五、五	一四二、一	二二八六、九
二三	一二四、七	一九八〇、二	一五五、三	二四四二、二
二四	一二六、六	二〇六八	一四六、九	二五八九、一
二五	一四〇、〇	二二四六、八	一六四、〇	二七五三、一
二六	一三二、〇	二三七七、九	二二九、二	二八八二、三

(一ポンドは二二〇匁である)

以上の成績からみて、白色レグホンは一〇〇羽を二十六週間即ち一八二日育てるために配合飼料三七七、九ポンド即ち一、七八三斤を必要とし、一羽当り一八斤の計算である。同様にして兼用種は一八二日間に一羽当り二、六斤を必要とする。尚兼用種は産み揃うまでに二〇〇日以上を必要とするから産期迄の飼料代は、あと三斤程度多く見積る必要があると思われる。

ヒナは大きくなればなる程多くの餌を食うことは勿論であるが食つた餌に対して大きくなる割合は初生雛が大で、ヒナの日数が経つほど長つた餌に対する生長の割合は小さくなることは次の表によつて明らかになる。



専業養鶏場の一室

一ポンドの体重増加に要する餌の量は

- 初生雛一週 三、一一ポンド
- 一週一週(中雛) 五、八四
- 二週一週(大雛) 一一、四〇

即ち初生雛の時は、一ポンド大きくなるために三、一ポンドの餌を必要とするに過ぎないが、大ヒナになると一ポンドの体重増加に一ポンドの餌を必要とすることになる。

だから養鶏家は若いヒナのとときにエサを充分与え環境をよくし早く発育させた方がよく、中雛、大雛、になつてからもエサを充分与え、早く一人前二羽前の体格を作り産期を早めた方が得策である。成鶏はいくらのエサを必要とするか?

毎日食う餌の量は、鶏体の大きさによつて違い、白色レグホン種のように体の小さい鶏は餌を少く食う、即ち巨方三斤の白色レグホンは生きる為に一羽一日〇、一九ポンド即ち約二十三匁の餌を必要とし、巨方四斤半の兼用種は一日に二七、八匁の餌を必要とするとされる。これが維持飼料と言われるもの

で、鶏が卵も産まず、又やせもせず、然し健康に生きてゆくための飼料であるが、卵を産むときには、維持飼料の他に産卵飼料として産卵一〇%毎に二〇羽に付一日一封度即ち二〇羽を加えなければならぬ。例えば二〇羽の白色レグホン種で維持飼料として一日二九ポンド産卵飼料として五〇%産卵のときには五ポンドを加えて、合計二十四ポンド、七〇%産卵のときには維持飼料一九ポンドに産卵飼料七ポンドを加えて二十六ポンドが一日の飼料消費量となる。

白色レグホン種の場合の産卵率と飼料消費量は次の如くなる。

産卵率 一〇〇羽一日の飼料

一〇% 二二ポンド (維持飼料 一九ポンド 産卵飼料 二ポンド)

二〇% 二二ポンド

四〇% 一三ポンド

五〇% 一四ポンド

六〇% 二五ポンド

七〇% 一六ポンド

即ち七〇%産卵の鶏は二〇〇羽で一日二六ポンド即ち二、二二〇羽の飼料を消費する計算となり、一羽当二匁食うこととなる。一ケ年に消費する餌の量は一羽当平均次のようになると言われる。

レグホン種 七五―八五ポンド

兼用種 八五―九五ポンド

産卵率の高い鶏は、もつと多く餌を食う筈である。

結 び

「アメリカの養鶏をみて」と云う何かつかみどころのない題をつけたのは、事業の経営に合理的に目をそばんづくで考えるアメリカ人の考え方を書く積りで筆をとつたのであるが、書き上げた事は最初考えた事と、ちぐはぐになつて終つた。

然し養鶏を経営するときに、収支計算ははつきりなるか、又養鶏経営中最も多く費用を要する飼料について初生雛から成鶏まで

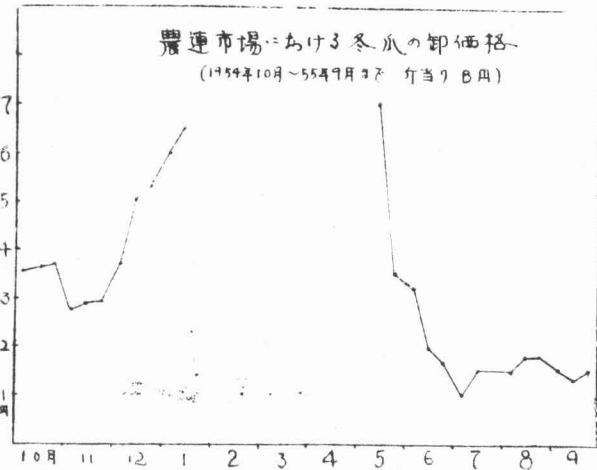
成鶏になつてから産卵中、どれだけの量を必要とするか等を計算するときの参考になれば幸である。

何処の国でも、最も大事な卵と飼料価格は、養鶏家が決定するのではなく、その時の相場であるから、養鶏で儲かる、儲からぬは其の年の景気に左右されることも大きいので、養鶏を

蔬菜價格の変動と輸出・輸入

四、冬 瓜

栽培面積はキヤベツに次ぎ第三位を占めて夏野菜として最も親しまれている。作付面積も一九三六年の八・一五%に対して



初めてから一年も経たない中に不景気に見舞われて収支償わずに事業を中止する人も多々あるのであるが、之を乗り切るのは合理的な経営、以外にないと思われる、アメリカの養鶏家と雖も同じことで苦難をのりきるために払われる努力は大変大きいものである(終) (松田 祐一)

一九五三年は九・七三%に増加した。図の価格変動をみるに十二月の抑成出荷と四、五月の早出しが高値で六月―十月は最も安値である。日本ではあまり重要蔬菜でないから輸出輸入の可能性はなく、島内だけの供給、需要の域を脱しない。

五、かぼちや

戦時中の白給菜園の奨励と共に急激に栽培面積が増えたが、現在は減少する傾向にある。

日本に於いては主食の緩和によつてカボチャの需要量は急激に低下し、価格も下落している。極く早期出荷で特別な品種で品質の良いものでないと問題にされない。琉球で一般に栽培されているカボチャは品質が悪く、自費のカボチャを早期に量的に生産するに至らず、輸出の途は開けない。宮崎、熊本は氣候的には沖縄のように恵まれていないが、栽培技術の向上によつて、促成栽培により、沖縄より早期に出荷している現状である。

昨年七月以後の農産市場での卸値をみると、七月から十月にかけては斤当り一、五円内外で、十月以降は二円内外を保持し今年四、五、六月の早出しは二、三円程度である。

六、トマト

戦前、戦後を通じ、割合に栽培面積に変動が少い蔬菜の一つである。しかし戦前のキヤベツに代つて最も有望な輸出蔬菜で